

事業名：地域や関係機関と連携した防犯教育公開事業（学校安全総合支援事業）
 モデル地域：佐倉市佐倉東中学校区
 所轄教育委員会：佐倉市教育委員会
 拠点校：佐倉市立佐倉東小学校
 電話番号：043—484—6185

1 モデル地域の現状

○モデル地域名：佐倉市佐倉東中学校区
 ○学校数：幼稚園 1園 小学校 2校
 中学校 1校
 ○モデル地域の安全上の課題
 学区住民の高齢化・児童数減少により防犯パトロールの協力者が減少傾向にある。地域には住宅地に死角となりやすい箇所が散在しており、不審者等の情報が多く寄せられる。

2 モデル地域の事業目標

児童・生徒が講話や体験活動を通して、地域の防犯上の課題を理解するとともに、危険予測や回避の能力を身に付け自分の身を守るのに必要な適切な判断や行動ができるようにする。
 学校・家庭・地域・関係機関の役割を明確にし、地域の特性に応じた学校安全体制を構築する。
 これらの取組について拠点校が市内幼小中学校に発信し、モデル地域内及び市内全体の防犯教育への意識を向上させる。

3 取組の概要

(1) 実施概要

実施時期	計画事項	参加者
6月	○第1回実践委員会	STEP 総合研究所 清永所長 市教委・本校職員
7月	○公開事業に関する打ち合わせ会議	北総教育事務所・市教委・本校職員
	○第1回合同推進委員会書面会議	書面にて実施
	○第2回実践委員会	中止
8月	○第1回ワンポイント不審者対応訓練	学校
	○校内職員研修	清永所長 学校、市教委
	○第3回実践委員会	清永所長 市教委・本校職員
	○第2回ワンポイント不審者対応訓練	学校
	○第1回防犯	市教委・本校職員

9月	教育事業会議	清永所長
	○ちばトレ1	清永所長 研究所所員 市教委・本校職員 幼稚園職員 モデル地域内学校職員
10月	○ちばトレ2	清永所長 研究所所員 北総教育事務所 市教委・本校職員 市内幼稚園・小中学校職員
	○第3回ワンポイント不審者対応訓練	学校・市教委 清永所長
	○公開研究会	清永所長 市教委・学校 北総教育事務所 市内幼稚園・小中学校職員
	○第4回ワンポイント不審者対応訓練	学校
12月	○第4回実践委員会	清永所長 市教委・本校職員

実践委員会等は主にメールや紙面での意見交換を行った。6月、8月、12月に打ち合わせを実施し、児童の実態把握と新型コロナウイルスによる内容変更について意見交換を行った。

〈打ち合わせ参加者〉

STEP 総合研究所所長、佐倉市教育委員会指導課、佐倉東小学校（校長、教頭、教務主任、安全主任）

② 公開授業の開催

モデル地域内拠点校を会場に「ちばトレ」の公開授業を実施。モデル地域内職員等の参観の機会を設定した。

日時：令和2年9月3日、10日

テーマ：講義や体験型防犯教室「ちばトレ」を通じた、児童の安全基礎体力の定着。

内容：講義や体験活動を通して児童の危険予測、回避、克服の能力を身に付ける。

参加者：清永所長、幼稚園職員、北総教育事務所、市教委・学校、研究所所員、ボランティア、小・中学校職員、PTA 役員、ガードパトロール

参加人数：計 150 名

③ 公開研究会及び講演会の開催

拠点校において、体験型防犯教室「ちばトレ」の実践を中心に成果と課題を報告するとともに、STEP 総合研究所所長による講演会を実施した。

日時：令和2年10月13日

テーマ：不審者から身を守る

内容：子どもたちの安全基礎体力向上に向けた取組

4 具体的な取組

(1) 安全教育の充実に関する取組

ア 安全教育の充実に関する取組

① 打ち合わせにおける情報共有

新型コロナウイルスにより、実

参加者：清永所長、北総教育事務所、市教委、学校、研究所所員、地域中学校職員、市内小学校安全主任、地域幼稚園職員

参加人数：52名

④ 研修会の開催

拠点校の教職員を対象に清永所長による学校安全に関する研修を実施。

日時：令和2年8月5日

内容：防犯に関する職員研修

参加者：拠点校教員 25名

⑤ 学校安全アドバイザーの活用

STEP 総合研究所

所長 清永 奈穂

派遣校数 1校

派遣回数 8回

イ 安全教育の取組を評価・検証するための方法

① 佐倉市の成果指標

ア 日頃の安全教育・管理や危機発生時における教職員の役割について共通理解を図っている学校の割合は100%であった。

イ 学校安全に関する校内会議や研修を行っている学校の割合は100%であった。

ウ 学校安全を推進するための中核となる教員を校務分掌に位置付けている学校の割合は100%であった。

エ アンケート結果から、「危険箇所への認識」や「正しい対処方法」が身についた児童の割合は75%から85%に上がった。

② 拠点校におけるアンケートの結果

ア STEP 総合研究所作成のアンケ

ートの実施。

児童の防犯についての知識や技能、共助の意欲や、不審者対応への自信が高まった。

イ 拠点校作成のアンケート

不審者に遭遇して対応する方法だけではなく、その前に予測し、回避する方法について考えが及ぶようになった。

(2) 組織的取組による安全管理の充実に関する取組

日頃より保護者、地域のボランティア（ガードパトロール）の方が校内を1日2回巡回している。登校時の安全の見守りも地区ごとに行われている。

(3) 学校安全の中核となる教員の学校安全推進体制の構築における役割及び中核教員の資質向上に係る取組について

今年度新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、モデル地域等での会議や打ち合せは行わなかった。体験活動の見学や、研究発表を市内の安全主任に行うことで取組の周知を図った。拠点校の安全主任は、STEP 総合研究所清永所長による研修や複数回の打ち合わせを通し、安全指導に関する資質の向上に努めた。

(4) その他の取組について

拠点校においては、体験型防犯教室「ちばトレ」の実施以外にワンポイント不審者対応訓練を合計4回実施した。今年度より実施したため、段階的により実践的な内容になる

ように行った。バリケードの作り方、学校全体に不審者を知らせる方法（防犯ブザーの活用）、合言葉の理解について実践的に身に付けることができた。



バリケードを作る児童の様子



校内に設置されている防犯ブザー

5 取組の成果と課題

【成果】

- ・段階的なワンポイント不審者対応訓練の実施により、児童の不審者対応への意識の向上と約束事の理解をすることができた。
- ・拠点校実態調査の結果から体験型防犯教室「ちばトレ」により、安全基礎体力の向上が見られた。
- ・特に、危険を予測する力や不審

者対応への自信に高まりが見られた。

【課題】

- ・全学年の防犯への意識の向上のため体験活動のプログラムの内容の検討が必要である。
- ・実施から数か月後に行ったアンケート結果で知識の定着が低下していた。継続的に取り組んだり発達段階ごとのプログラムを作ったりするなどの改善の余地がある。
- ・今年度は感染症拡大防止の観点から拠点校を中心とした内容に留まった。地域内、市内の安全教育の充実に向けた取組が今後必要である。